



# ペトリウス

2017年5月1日発行  
(毎月1回1日発行)

谷山カトリック教会

891-0113  
鹿児島市東谷山2-33-13  
TEL 099-268-2084  
FAX 099-284-5738

E-Mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/>

発行人： 頭島 光 神父 編集委員： 太田勇二郎 Sr.下川千穂子 岸誠之助

## 共に暮らす家

2017年度から二年間にわたる、私たちの小教区テーマは「共に暮らす家を大切に！」としました。そもそも、これは2015年5月24日聖霊降臨に公にされた、フランシスコ教皇様の『回勅』ラウダート・シの副題です。日本では回勅が出されても、翻訳して私たちの目に入るのは、それからおよそ一年後になります。ですから、この翻訳本は昨年の夏に出版されたものなのです。いずれにせよ、これから少しずつ、皆様にこの本の内容を解説しながら、何を大切にすべきかを、共に考えたいと思います。

### ◆ 傷ついた世界

この本の中で教皇様が私たちに訴えるのは「無関心ではなく新しい対話を！」ということです。十把一絡げに「自然環境を大切に！」と言われても何をどう取り扱うのか見当が付きません。そもそも、自然界では何が起こっていて、地球環境の何が問題なのか、依然闇の中だからです。そもそも、私たちが住むこの家には様々な生命体が生き、多種多様な人種、家族、文化宗教的生活が、入り乱れて混在しています。今やこれらの環境を取り巻く人的、社会的環境は破壊され、死滅の危機にさえ瀕し、甚大な損害と痛手を被っています。新しい対話はこれらの傷ついた世界を気にかけて、少しでも環境を改善するため人を尊重し、相互の関係を考慮し、全てが神からの賜物であることに気づいていくことに始まります。

### ◆ ケアする

私たちの傷ついた生活環境を元に戻すこと、それをリハビリといいます。私たちの体にも同じ用語を用います。元々、リハビリタスというラテン語から出てくる言葉で、機能回復、社会復帰などの意味になります。通常の生活の中で、できていたことができなくなる。こんな苦しいことはないでしょう。心まで折れてしまいそうです。何とかして元の生活に戻りたい、誰しもそう思うものです。しかし、一旦、壊れてしまったものを一体どうしたら元に戻せるのでしょうか。完全に

ではなくとも、少しでも近づけたいと思うのは皆同じです。「ケアする」とは正にそのためにある言葉です。

### ◆ 命は一つ

世界は一つ、命は一つです。関係ないものが世界に一つもありません。なのに、人は自分だけが一人で存在しているかの如くに錯覚しています。人は自分だけで人と成り得ません。自然は皆のために与えられている神からの贈り物です。なぜ自分たちだけの所有物であるかのように、利用し取り扱うのでしょうか。自然林を大地から剥ぎ取り、水や空気を汚染し、そこに住む弱小小さな生命体を死滅させてきた、私たち人類は悔い改める必要があります。求められるのは、消費ではなく自制、貪欲

ではなく寛容、無駄使いではなく分かち合いの心です。

### ◆ エコロジカルな生き方

アジジのフランシスコはエコロジー分野で働く人の守護の聖人です。彼は単に貧しい者となっただけでなく、被造物をこよなく愛し、貧しい人、見捨てられた人を思いやり、大切に神の家であり、巡礼者でした。彼の自然を見る眼差しは愛に満ち、口にはいつも歌が溢れていました。彼の歌声を聞いた時に、野の花や空の鳥さえも共に神に賛美の歌を捧げるようです。エコロジカルな生き方とは、存在する全てのものとながっていると体験すれば、自ずと湧いてくる節制と気遣いの心そのものです。



## 今月の聖人から

### 殉教者ペラジア と 殉教者フロリアノ

5月4日

ディオクレチアヌス皇帝の迫害で、304年に殉教したこの二人は、全く遠く離れて住んでいた人達でしたが、似たような酷い処刑にあったため、今日では同じ日の殉教者として記念されています。

ペラジアは非常に美しく皇帝の王子に求婚される程でありました。その求婚を断ってキリスト信者になったため王子ばかりか皇帝も大いに怒り、青銅で作られて中が空洞になっている雄牛の缶に閉じ込められて、死ぬまで焼かれたといわれます。

この事件がタルソで起きていた時、オーストリアの北部で、フロリアノというローマ軍の士官が皇帝に仕えていましたが、キリスト教徒狩りに出会うと棄教を迫られました。しかし、彼は二度も激しく鞭打たれましたが、信仰を保ち続けたため、最後は体の皮膚をはがされて川の中に投げ込まれ殉教したのです。



杖を持つ聖フロリアノ

Taniyama CC  
**NEWS**

4月16日 主のご復活、おめでとうございます

ミサ後催された「復活祭祝賀会」では、前日の徹夜祭で洗礼を受けた4名の方々に改めてお祝いと歓迎を致しました。谷山教会との出会いがどうであったか、それぞれエピソードを交えて、素敵な自己紹介をして下さいました。併せて、まことに恐縮でしたが、頭島神父様の叙階30周年のお祝いもさせていただきました。



ユスト

下園清則さん

ヨハネ

満吉敬太さん

ラファエラ

田原果朋(かほ)さん

ローザ・マリア

山口美穂さん

4月23日 平成29年度(2017年度)信徒総会

ミサ後10時10分から11時20分にかけて、87名の出席を得て開催されました。諸議題についての詳しい報告があり、全て承認されました。

#### 維持費袋

「私たちの教会は  
私たちの手で」

教会維持費を負担することは  
私たち信者の義務です。  
各々の分に応じて捧げましょう。

#### 教会維持費

各自が分に応じて毎月一定金額を教会運営・管理  
と宣教司牧などの経費のために捧げる献金です。  
初物を捧げる心で月々献金しましょう。

#### 施設営繕費

聖堂や信徒会館等の建物の修理、設備の拡充、  
備品の購入などのための献金です。

#### 神学生養成費

司祭を目指す神学生の育成のための献金で  
全額教区へ送金されます。

その詳細については添付の資料をご覧ください。



## ムイベルガ神父のアンテナ

# 祈ることは働くこと、働くことは祈ること

1873年は労働者たちにとって転換期でした。どの点に於いてでしょうか。この年、カール・マルクス（1818—1885）はエンゲルスとともに共産党宣言を作成しました。この論難書のテーマは次の様でした。労働者たちの闘争は、彼らからの搾取、階級の無い社会の設立、私有物の廃止、相続法規の廃止、国境線の除去などでした。労働はマルクスにとって、人間の大自然に対しての闘いです。これまで労働は強制と関係づけられていました。しかしマルクスによると、労働は新しい人間にとっては欲求である筈でした。

誰か又は何かが、このマルクスの考え方に影響を与えたでしょうか。きっと彼の家族の歴史が重要な役割を演じたと思われます。例えば1818年彼の父はユダヤ教からプロテスタント教会に改宗しました。マルチン・ルターは1520年に「キリスト者の自由」という論判書を著し、労働者の社会に大きな影響と強い魅力を与えました。ユダヤ教の聖職者たちは、たびたび「ユダヤ教では聖書に悖る行いをして、それは道徳的な罪に対する罰でもないし必要悪でもない」といいます。しかし、労働に関する聖書の見方には神様は不従順でした（創世記 3.19）。アダムとエヴァを処罰し、「土から取られたお前は、土に還るまで額に汗し

て糧を取れ」と命じました。

今でも司教パツラディウス（364—431）に書かれている荒野で生活した教父たちの伝記を読むと、労働とは彼らには別の違ったものであって、つまり創世記の言葉に基づいて「荒れ野で贖罪の生活をする」という印象でした。



ヌルシアの聖ベネディクトス（480—547?）は、この労働に対して違った見方をする聖人でした。彼はイタリアのスピアコ近くの洞窟で隠遁者の生活をし、エジプトやギリシャの修道僧たちと一緒に祈りや労働の生活をしていました。注目すべきところは、労働は物質的な経済上の重要性だけではなく、労働は霊的な価値、神から与えられた恵みとして理解されていました。ベネディクト修道会の戒律第48章には「怠慢は靈魂の敵です。一定の時間を労働

に当て、さらに一定の時間を聖なる読書に割くもの」とあります。ベネディクトスは労働の価値を明らかにし、キリスト教にとっては、労働がまず神を礼拝すること、そして神から受けた力と才能のための感謝であることとしました。

（労働のテーマのために、第2ヴァチカン公会議の「現代世界憲章」を読むことを勧めます。）